

乗雲

寺報

第105号

R1.5.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

道元禪師御一代記押絵 5

天童山の修行



宝慶元年(西暦1225年)五月一日、道元さまは天童山景德寺に登り如浄禪師と相見する。如浄禪師は六十二歳の高齢でしたが修行に励む僧たちにことのほか厳しく指導されておりました。あの朝坐禅中に一人の僧の居眠りを見つけるとこの僧を大声で叱りつけました。雷のような僧堂に響きわたる声を聞き、この瞬間、道元さまは大悟(お悟りを開かれる)された。

よき香りのする生き方

お釈迦さまは弟子とともに説法の旅を続けておられました。ある日道ばたに一枚の紙きれが落ちていました。お釈迦さまは弟子に拾わせ、何の紙であるかとたずねられました。弟子は「香りのよい物を包んであったのか、とてもいい匂いがします」と答えました。しばらく歩いてみると今度は一本の縄が落ちており、弟子に拾わせ同じようにどのようなものであるか聞きました。弟子は「腐ったものでも縛ってあったのか、とてもいやな匂いがします」と感想を述べました。するとお釈迦さまはこの紙と縄の匂いのことから弟子たちに次のようなお話しをされました。「紙と縄はもともとは香りのよいものであったが、何かを包んだり、縛ったりすることによって、よい香りがしたり、いやな匂いが染みついたのである。同じように人の心も出会った

縁によって良くも悪くもなるものである。正しい教えの中に身を置いてみると自然に徳の香りに包まれる」お釈迦さまは人々の正しい生き方をごく身近なことを喩えに平易に説かれています。

お釈迦さまの教えを伝える法句経には、**入と生まるること難し、死すべきもの今いのちあるはなお難し**」「私たちはこの地球上にあらゆる生き物がいる中で人間として生まれた。人間として生まれただけでも難しいことなのに、いつ死んでもおかしくないこのいのちを抱えながら今生きています。こんな難しいことはない」というお言葉があります。今日から元号は**令和**です。

春の初めの良い月にさわやかな風が柔らかく吹いている「梅の花が、美しい女性が鏡の前でおしろいをつけているかのように白く美しく咲き、宴席は高貴な人が身につける香り袋のように薫っている」この令和の意味を深くかみしめ、限りあるいのちを大切に、この世が良き香り、正しい教えで満ちるように、毎日を真剣に、悔いのない生き方をしていきましょう。

令和元年 年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

▼令和元年(2019)の年回表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正当各家には昨年暮れに通知していただきますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちようど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌、九十二年目が十三回忌となる。